

タイトル: A Letter to Dr. Andrew Hill

2022年3月7日公開 (ビデオ 18分51秒)

<https://bird-group.org/watch-dr-tess-lawrie-sends-a-video-letter-to-dr-andrew-hill-one-year-on-from-his-u-turn-on-ivermectin/>

登場人物

Dr. Andrew Hill: University of Liverpool (UK)
Dr. Theresa Lawrie: Evidence-based Medicine Consultancy Ltd. (UK)
Dr. Paul Marik: Eastern Virginia Medical School (US)
Dr. Pierre Kory: Front Line COVID-19 Critical Care Alliance (US, FLCCC)

構成

Dr. LawrieがDr. Hillにメッセージを送るビデオレター形式。途中、Dr. LawrieとDr. Hillが直接行った会話の実録映像が入っている。COVID-19に対するイベルメクチンの有益性を信じるDr. Lawrieが同じ意見を持っていながら、突如、イベルメクチンの即時使用に反対の立場を取ったDr. Hillに対して、その理不尽を訴え、今からでも使用賛成派に戻ることを促す内容。後半にはDr. Hillが所属するUniversity of Liverpoolへの研究資金援助が関係したことが示唆されている。



Dr. Andrew Hill: University of Liverpool (UK)



Dr. Theresa Lawrie: Evidence-based Medicine Consultancy Ltd. (UK)

1

内容

2020年10月、WHOが感染症及び疫学の権威であるDr. Hill、Dr. Lawrie、Dr. Marik、Dr. Koryの4人に対して、イベルメクチンの疫学データを検証するように依頼した。

2021年1月、4人はイベルメクチンが安全、安価であり、COVID-19に対して有効であることで合意し、UK政府に対して、その主張を行いはじめた。しかし、その矢先、Dr. Hillは突如、ほかの3人に相談することなく、論文をまとめ、「規制当局がイベルメクチンの使用を許可するためには、イベルメクチンはもっと規模が大きい、正しく管理されたランダム化試験により、効果が証明されなければならない。」と結論付けた。(論文は出版されたが後日回収された)

Dr. Lawrieは十分な科学的証拠があり、パンデミックで毎日死亡者が出ている中で、大規模臨床試験で効果を証明する猶予はないと反論。Dr. Hillはイベルメクチンに関しては色々な意見があると回答するが、Dr. Lawrieは周りの意見ではなく、我々は疫学のデータを目の前にしており、自分たちで判断ができる立場だと反発した。

その後、Dr. Hillが意見を変えなかったことで、イベルメクチンの使用が制限され、安全性が担保されていない遺伝子を用いた実験的なワクチンが子供にまで使用される事態になったことをDr. Lawrieは批判した。

また、Dr. Lawrieは、Dr. Hillの所属するUniversity of LiverpoolがUnitaid(ユニットエイド: 発展途上国の医療貢献を促す非営利団体)から、2021年1月に\$40Mの寄付を得たことを取り上げ、Dr. Hillの翻意に何らかの関係があったのではないかと示唆した。

今からでも遅くないから元の考えに戻れば全てを許すとDr. LawrieがDr. Hillに訴えてビデオは終了した。

2